

三重県競技力向上対策本部

第8回競技力向上対策委員会



平成29年3月23日（木）

プラザ洞津 末広の間

三重県競技力向上対策本部
第8回競技力向上対策委員会 資料目次

○ 三重県競技力向上対策本部第8回競技力向上対策委員会 会議次第	P 3
○ 説明・報告事項	
(1) 三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過	P 7
(2) 三重県競技力向上対策本部第7回競技力向上対策委員会に係る概要	P 9
(3) 三重県競技力向上対策本部各専門委員会に係る概要	P 10
(4) 第71回国民体育大会に係る総合成績	P 15
(5) 第71回国民体育大会三重県選手団に係る入賞一覧	P 16
(6) 平成28年度競技力向上対策事業に係る実施報告及び成果	P 18
(7) 女性アスリートタレント発掘・育成事業に係る進捗状況	P 19
○ 審議事項	
・平成29年度三重県競技力向上対策事業（案）について	P 23
○ 協議事項	
・育成期2年目における競技力向上の取組について	P 53
○ 参考資料	
・三重県競技力向上対策委員会規程	P 57
・三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会名簿	P 59

三重県競技力向上対策本部
第8回競技力向上対策委員会 会議次第

平成29年3月23日（木）

プラザ洞津 末広の間

1 開 会

2 挨拶

3 説明・報告事項

- (1) 三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過
- (2) 三重県競技力向上対策本部第7回競技力向上対策委員会に係る概要
- (3) 三重県競技力向上対策本部各専門委員会に係る概要
- (4) 第71回国民体育大会に係る総合成績
- (5) 第71回国民体育大会三重県選手団に係る入賞一覧
- (6) 平成28年度競技力向上対策事業に係る実施報告及び成果
- (7) 女性アスリートタレント発掘・育成事業に係る進捗状況

4 審議事項

- ・平成29年度競技力向上対策事業（案）について

5 協議事項

- ・育成期2年目における競技力向上の取組について

6 閉 会

説明・報告事項

三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過

年月日	内 容
平成23年 11月15日	県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。
平成24年 1月11日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内々定されました。
平成25年 5月29日	三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第1回本部会議」を開催しました。
6月 3日	三重県競技力向上対策本部「第1回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第1回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月13日	三重県競技力向上対策本部「第1回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月16日	三重県競技力向上対策本部「第1回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成26年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第2回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月22日	三重県競技力向上対策本部「第2回本部会議」を開催しました。
10月 1日	三重県競技力向上対策本部「第3回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月13日	三重県競技力向上対策本部「第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成27年 3月19日	三重県競技力向上対策本部「第4回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月23日	三重県競技力向上対策本部「第3回本部会議」を開催しました。

9月 4日	三重県競技力向上対策本部「第5回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月4日	三重県競技力向上対策本部「第3回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第3回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月25日	三重県競技力向上対策本部「第3回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成28年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第6回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第4回本部会議」を開催しました。
7月20日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内定されました。
9月14日	三重県競技力向上対策本部「第7回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月22日	三重県競技力向上対策本部「第4回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。

三重県競技力向上対策本部第7回競技力向上対策委員会に係る概要

平成28年9月14日(水)
プラザ洞津 末広の間

・育成期における競技力向上対策事業の取組

①ジュニア選手及び少年選手の発掘・育成・強化に係る主な意見

- ・特別コーチ派遣事業は、ジュニア・少年選手にとって憧れの選手が指導にあたることから、非常に効果的な事業である。単発でも効果は高いが、年間を通して派遣することでさらに効果は高まるため、年間コーチの人数を増やすべきである。
- ・スポーツ指導員配置事業は、ジュニア・少年選手の競技力向上に加え、指導者の資質向上も図られることから、計画的に拡充を図っていく必要がある。
- ・強化指定運動部が強化費を申請する強化活動の中には全国大会での活躍を目指した活動とは思えないような活動もあるため、強化計画の妥当性や有効性についても評価を行う必要がある。

②成年選手の育成・強化に係る主な意見

- ・「三重とこわか国体」において、天皇杯・皇后杯を獲得するためには、2,500点を獲得する必要があるため、現在よりもおよそ1,600点の上積みが必要になる。ただし、県内企業の採用枠には限りがあるため、対策本部が競技毎の採用人数、採用年次、採用する選手のレベル等を種目横断的に見える化するとともに、定期的に軌道修正して取組を進める必要がある。
- ・トップアスリート就職支援事業については、「三重とこわか国体」から逆算してしっかりとしたグランドデザインを対策本部が描くことが必要である。そのうえで、「仮称：三重とこわか国体スカウト協議会」を発足させる等、スカウト体制の確立を行い、戦略的かつ計画的に取組を進めるべきである。
- ・県内企業での採用に加え、県や市町の職員として採用していただけるよう、関係団体に働きかけをしていくべきである。
- ・スポーツ施設の充実とともに、選手や指導者の目線でフレキシブルな利用が可能となるよう、県が中心となり、各市町にも働きかけていくべきである。

③その他の育成・強化に係る主な意見

- ・強化費は、広く薄く支給しても意味がないため、支給した強化費が実際に有効利用されているのかについて調査を行ったうえで、支給額については検討する必要がある。
- ・現在は、対策本部から一定額の強化費が支給され、それに応じて競技団体や運動部が強化計画を立案し、強化活動を行っているが、今後は競技団体や運動部が強化計画を立案し、その有効性や妥当性を対策本部が判断したうえで、強化費の支給額を決定する流れに変えるべきである。
- ・金銭的な支援も必要だが、それぞれが抱える課題を解決するような支援も必要である。例えば、勝負どころで勝ちきれないような競技団体には、メンタルトレーニングを取り入れるためのアドバイスや支援を行っていただけるとありがたい。

三重県競技力向上対策本部第4回ジュニア・少年選手強化専門委員会に係る概要

平成28年11月16日(水)

三重県津庁舎52会議室

- ・第71回国民体育大会結果及び本年度競技力向上対策事業を踏まえた今後の取組
- ①下位入賞にとどまっている種目の競技点の上積みや、入賞の可能性のある種目が確実に入賞できる支援のあり方に係る主な意見
 - ・高等学校強化指定運動部において、強化体制が県内で統一されている競技は比較的安定して入賞している。
 - ・県内に有力校が複数ある場合でも、日頃から近隣校で集まり合同練習に取り組みながら、充実した形で国体に繋ぐことができる。
 - ・国体期間中において、選手は連泊や他校との集団生活となるため、そのような生活に不慣れであると試合にも影響し、十分な力が発揮できない。そのため、日頃から遠方での長期的な合宿を取り入れるなど、国体を想定した取組が必要である。
 - ・国体直前に強化練習等で選手にとっても過密なスケジュールとなる中で、ケガをさせてしまうケースがある。そのため、普段から定期的にトレーナーに診てもらったり、国体にトレーナーを帯同してもらったりなどケガ防止対策が必要である。
 - ・食事・栄養面の指導や女子選手のケアについて、スポーツ栄養士や婦人科の方にアドバイスをもらうことや、選手に直接話をしてもらうような機会が定期的に持てるとよい。
 - ・監督やコーチ以外に戦略分析のためのスタッフや体調管理をするトレーナーなど国体に帯同してもらえらるスタッフの協力が得られるとよい。
- ②全国大会での入賞が遠のいている強化指定運動部を入賞レベルに引き上げるための強化指定のあり方に係る主な意見
 - ・実績の出た競技については、指導者の熱意、選手の確保ができる状況、活動環境が十分整っていたことが要因といえる。また、スポーツ指導員に指導してもらったことは少年選手の強化推進に大きく影響した。
 - ・東海ブロックを勝ち抜くために、国体選考会についても戦略を十分練ったうえで取り組む必要がある。
 - ・強化指定校については、それぞれの強化計画や活動の反省、振り返りが十分なされていない状況がある。そのため、各指定運動部の強化活動の課題が明確にされず、改善につながっていない現状にある。
 - ・強化活動について、全国大会での勝ち負けだけでなく、強化活動そのものの意義や効果など詳細に確認し、課題を明確にしたうえで改善をおこなう必要がある。
 - ・各競技団体で、国体に向けて何点の獲得を目標に強化をするのか、強化指定校と共有し、自覚を促す必要がある。
 - ・強化指定事業を旅費の補助事業としている感覚があるのではないか。強化費の使い方についても、十分検討を重ねたうえで計画書を作成する必要がある。

三重県競技力向上対策本部第4回成年選手強化専門委員会に係る概要

平成28年11月16日(水)
三重県津庁舎52会議室

・第71回国民体育大会に係る成年選手の結果分析及び今後の取組について

①強化費の配分方法の見直しと支援のあり方に係る主な意見

- ・競技によっては、アマチュア選手だけでなく、プロ選手とも対戦する場合もあり、計画的に取り組まなければ対応できない。これまでの旅費・宿泊費といった遠征費だけでなく、選手のケアを行うサポート面も重要になっている。加えてターゲットエイジに向けた強化も行わなければならない。これらのことを自主的に計画し、事務局がそれに対して強化費を配分していくべきである。
- ・東海ブロック大会を勝ち抜くには、日本一になるほどの戦力が必要な場合があり、得点できないことから計画を出せない競技団体もあるので、担当者が深く関わっていく必要がある。
- ・強化費を獲得するために計画立案することは、競技団体の自覚や主体的な行動を促すと考えられる。
- ・配分の基準については、結果だけでなく、5年後を見据えた計画性、熱意といったところも評価項目とするべきである。

②成年選手の育成・強化の取組に係る主な意見

区分「A」「B」における取組について

- ・獲得得点を増やすためにも、今年度の得点と、中期的な計画的強化を評価に反映するべきである。
- ・「団体」と「個人」。団体においても「団体の団体」と「団体の個人」と競技によって状況は異なる。短期的な加点については、「個人」で獲得をめざすべきである。
- ・5年後にむけた中期の育成・強化を重要な評価の要素とするべきである。
- ・指導者の招聘や確保、育成が必要である。

区分「C」「D」における取組について

- ・国体への意識がまだまだ低いところもあるので、協会・連盟、現場の指導者の意識改革を行う必要がある。
- ・選手確保に向けた活動に競技団体は注力する必要がある、スカウト活動に対して、必要な支援をできるようにすべきである。
- ・競技団体と事務局がより連携を図り、選手確保を進める必要がある。
- ・メディアへの露出を増やし、国体への注目度を上げるべきである。

女子種別における取組について

- ・女子ラグビーにおける「PEARLS」の取組は、協会主体で行ったこともあり、様々な要因も合致し、好結果につなげることができた。特に、環境を整えられたことがよかったのではないか。
- ・女子選手の確保は、男子選手よりも困難が予測される。しかし、公的機関への就職は魅力的であると考えられる。
- ・選手勧誘には時間が必要となることから、競技団体や事務局が連携し、早期に取り掛かる必要がある。
- ・女性指導者を増やすことも一つの方法として考えられる。

- ・ 高校運動部の中で、県外の中学生大会やジュニア大会の視察に取り組んでいる指導者がいる。そのことで他県の子どもたちや保護者にも三重県の競技の魅力をアピールすることができ、県内のジュニア選手の県外流出を防ぐことにつながる。ジュニア選手強化という視点からそのような活動の支援も前向きに検討していけるとよい。

③女子種別における入賞レベルへの引き上げや、安定した競技点につながる支援のあり方に係る主な意見

- ・ 高いレベルで競技をやりたいというジュニア選手が少ないように感じる。小学生期から高い目標を持たせることが必要ではないか。
- ・ 女子選手の育成は、競技力、技術力だけでなく、メンタル的なサポートが必要がある。
- ・ 女子選手については、選手同士の関係が密になればなるほど結果につながると感じる。チームとしての共同生活がなく、大会のためだけの選抜チームでは結果はのぞめない。
- ・ 技術指導はできるが、生徒のスイッチ入れられないで困っている指導者はいる。定期的なカウンセリングを入れることで、女子選手の力を引き出すことができないか。
- ・ 指導者はカリスマ性を持っていないといけなると考える指導者が多いが、必要なのは選手のことを一番考える指導者であり、その思いは選手にも伝わる。

三重県競技力向上対策本部第4回企業等連絡調整専門委員会に係る概要

平成28年11月22日(火)
三重県吉田山会館第303会議室

・トップアスリート就職支援事業の計画的かつ着実な実施について

①戦略的・計画的なスカウトに係る主な意見

- ・育成・強化に向けた中・長期の計画に目指す姿とロードマップをしっかりと書き込むことが大切である。どこを補強しないといけないのか、どういうアスリートを獲得のか等何をすべきかを見える化し、絵をしっかりと描く必要がある。
- ・実業団チームにおいても専属のスカウトを配置し、良いアスリートを獲得することと、採用後にそのアスリートを監督や現場が鍛えあげるという車の両輪のようなしっかりとした体制が必要である。監督一人でスカウトを兼ねると、時間が限られるので難しい。
- ・アスリートを獲得するためには先を見据えながら、高校・大学の1・2年から声かけをはじめめる必要がある。他県と競合するので、三重県ならではのオリジナリティのある戦略を打ち出す必要がある。
- ・種目によって育成・強化にどれくらい時間をかけるのかバラツキがあることから、平成33年の三重とこわか国体で天皇杯・皇后杯を獲得するための取組や競技得点について、競技団体としっかりと話し合っ考える必要がある。
- ・採用協力企業106社も雇用条件が全て同じではなく、試合や合宿に寛容な企業もあれば、定時勤務後の夜間練習や勤務前の早朝練習が基本の企業もあるので、採用協力企業の分類が必要である。採用協力企業の分類とアスリートを並べて、どのようにマッチングするか、貴重なポストをどう埋めるのかを戦略的に考える必要がある。
- ・雇用条件だけでなく、企業と住居と練習場所・練習時間を勘案してマッチングする必要がある。
- ・日本代表選手クラスになると合宿等で年間100日以上いないこともあるので、責任ある仕事を与えにくい。教職員の場合は、合宿等があっても、学校を休みにくいという実情があるので、アスリートのレベルによって、どの程度勤務が可能なのかを確認し、実情に応じたマッチングを行う必要がある。
- ・アスリートの人生に責任を持ち、人に優しい採用やアスリートに対して温かい採用計画を全面に打ち出して、他県との差別化を図る必要がある。
- ・競技によっては、国体でもプロ化しており、インカレベスト8程度では、国体で勝てないので、インカレ優勝などトップを獲得するために、三重県の魅力をどのように伝えるかを考える必要がある。トップレベルは、東京・大阪を中心に多くいるので、強豪大学とのタイアップもしながら監督やアスリートに三重県へ実際に来てもらい、練習環境などを知ってもらう必要がある。
- ・次年度以降、年間50～60名程度のアスリート採用に向けて、採用協力企業106社をさらに増やしていく必要がある。
- ・アスリートを受け入れる体力のある企業が商工会の中には少なく、北部に偏っているのが実情である。企業の社長の考え方や思いも聞きながら、アスリートが企業のことを理解できるよう採用協力企業の情報を充実させる必要がある。
- ・企業側には平成33年はまだまだ先だと考えているところもあり、国体のPR不足の

ところもあるのではないか。就職支援に関しても、国体までの一時的な雇用と心配しているところもあるので、岐阜県の場合は8割が国体後も定着していることを企業側に浸透させる必要がある。また、天皇杯・皇后杯獲得に向け、平成33年までに沢山のアスリートを獲得しなければならないという課題を浸透させることが大切である。

- ・採用協力企業を県外企業へも拡げるにあたっては、経営者がアスリートの場合、理解が早く、上手くいくのではないか。アスリート出身のオーナー企業を調べて、そこから攻めるのが効率的である。
- ・事務局内でアスリートの条件と採用企業の情報を見える化と類型化し、マッチングしやすくする必要がある。その情報を事務局内でしっかりと情報共有する必要がある。
- ・採用後にこんなはずではなかったとならないよう、アスリートが企業を選ぶ段階で、その企業のトップの考え方を見える化しておく必要がある。
- ・スカウト活動で一番大切なのは、アスリートの伸びしろの見極めとともに、採用後、如何に伸ばすかということが大切である。そのためには、三重県に来てよかったとアスリート自身が思わないと、伸びるものも伸びない。継続的なケアやフォローアップ体制など三重県らしさを打ち出し、他県との差別化を図る必要がある。
- ・伸びしろを見極め、どのアスリートを獲得かの決断は、監督やスカウトの直感や眼力を信じるしかない。ハートが強く、素直なアスリートは伸びしろがあるように思う。
- ・50名程度のアスリートを獲得するためには、その5～6倍の候補者から選定する必要がある。面談の時期に偏りがあり、他県と競合するので、限られた時間の中で、人員をフルに動員して選手獲得に臨む必要がある。
- ・アスリート側からすると、採用協力企業106社の中から、どう選んでよいのかわからないので、企業情報の中に採用する競技まで見える化した方が選びやすいと思う。現状では、採用協力企業との話し合いの中で、どの競技のどのレベルのアスリートを採用するかということまで詰めていないので、雇用条件別に整理・分類して見える化する必要がある。

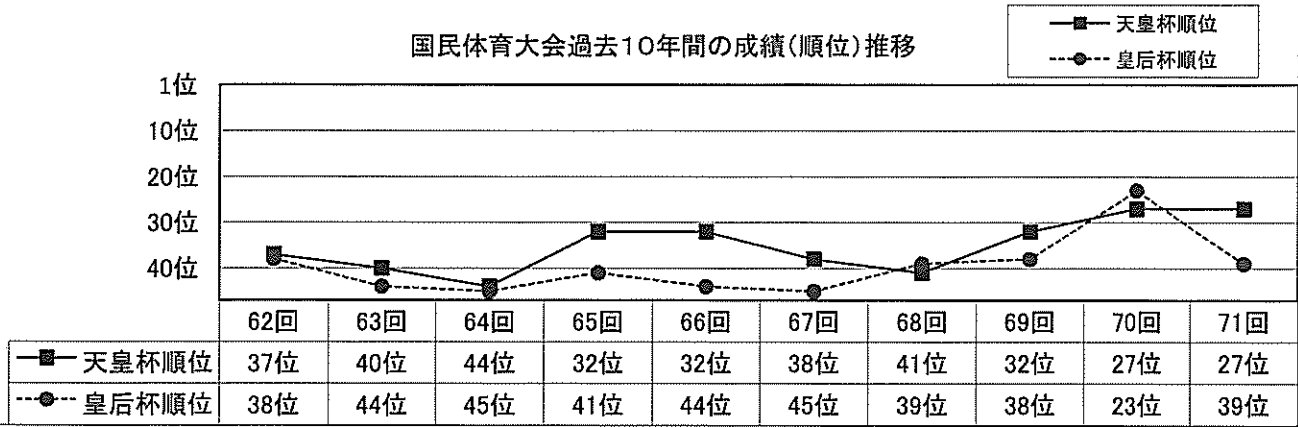
②採用後の競技活動の確保とフォローアップに係る主な意見

- ・アスリートや採用企業へのフォローアップを怠ると口コミですぐに広がる懸念がある。逆にフォローアップをしっかりと行うことで三重県の強みにできる。トップアスリート就職支援事業は、「チームみえ」として責任を持つプロジェクトであるので、ホットラインの開設や駆け込み寺的な相談体制の確立が必要である。採用して終わりでは良くない。
三重国体の後も含めてやるべきである。
- ・採用するだけでは、アスリートも採用企業も不安になるので、採用後の企業へ行って、様子を伺いながら話し合いの場を持つことが大切である。他の採用に響くことのないようにしないといけない。
- ・障がい者雇用でも同じであるが、ホットラインなどの相談体制をしっかりと行う必要がある。採用後のフォローアップを行い、定着を図る必要がある。
- ・採用数が少ないので、今はフォローアップを手厚くできていると思うが、今後、採用数が増えると今の人員体制では厳しいと思われる。マッチング優先になりがちであるが、フォローアップも競技団体・県・県体育協会などが一体となって、しっかりと行う必要がある。

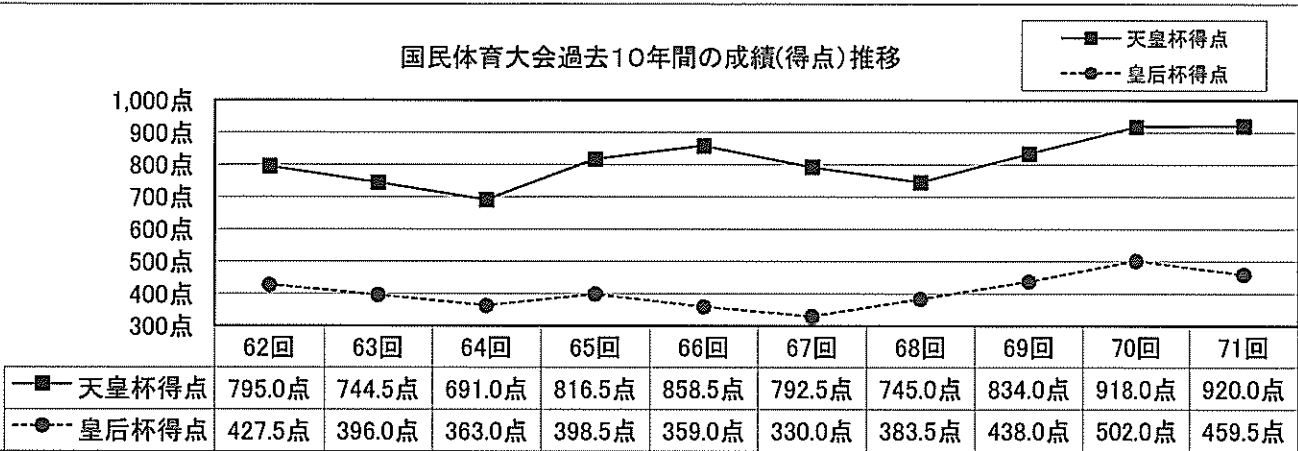
第71回国民体育大会に係る総合成績

説明・報告事項4

国民体育大会過去10年間の成績(順位)推移



国民体育大会過去10年間の成績(得点)推移



男女総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
1	ソフトテニス	90.0	10.0	100.0
2	レスリング	51.0	10.0	61.0
3	ウェイトリフティング	82.0	10.0	92.0
6	相撲	21.0	10.0	31.0
7	テニス	24.0	10.0	34.0
11	フェンシング	24.0	10.0	34.0
11	サッカー	20.0	10.0	30.0
12	馬術	22.0	10.0	32.0
13	体操	15.0	10.0	25.0
14	ラグビーフットボール	20.0	10.0	30.0
14	セーリング	17.0	10.0	27.0
15	ボウリング	24.0	10.0	34.0
17	弓道	18.0	10.0	28.0
19	水泳	34.0	10.0	44.0
21	スキー	3.0	10.0	13.0
23	自転車競技	12.0	10.0	22.0
24	陸上競技	34.0	10.0	44.0
31	ボート	1.0	10.0	11.0
33	カヌー	7.0	10.0	17.0
41	ライフル射撃	1.0	10.0	11.0
小計	20競技	520.0	200.0	720.0
	他 20競技		200.0	200.0
	40競技	520.0	400.0	920.0

女子総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
3	馬術	15.0	10.0	25.0
5	サッカー	20.0	10.0	30.0
5	ラグビーフットボール	20.0	10.0	30.0
5	レスリング	2.5	10.0	12.5
6	ソフトテニス	30.0	10.0	40.0
10	フェンシング	15.0	10.0	25.0
13	テニス	3.0	10.0	13.0
14	ウェイトリフティング	2.0	10.0	12.0
33	陸上競技	9.0	10.0	19.0
33	ライフル射撃	1.0	10.0	11.0
35	水泳	2.0	10.0	12.0
小計	11競技	119.5	110.0	229.5
	他 23 競技		230.0	230.0
	34競技	119.5	340.0	459.5

第71回国民体育大会三重県選手団に係る入賞一覧

団体種目

順位	成 年 の 部			少 年 の 部		
1				ソフトテニス	少年男子(三重高校)	監督 玉川 裕司
				ボウリング	少年男子(津田学園高校)	監督 柳川 弘行
2	テニス	成年男子(全三重)	監督 徳丸 真史 金山 敦史			
	相撲	成年男子(全三重)	監督 山下 浩幸			
3	弓(近道)	成年男子(全三重)	監督 多湖 賢治	ソフトテニス	少年女子(三重高校)	監督 神崎 公宏
4	フェンシング(フルール)	成年女子(全三重)	監督兼選手 大森 祐里			
5	サッカー	女子(全三重)	監督兼選手 小野 鈴香			
	ソフトテニス	成年男子(全三重)	監督 中村 浩			
	ウタビ・フットボール	女子(全三重)	監督 記虎 敏和			
6	体操	成年男子(相好体操クラブ)	監督 神保 俊彦	セーリング	少年男子420級(津工業高校)	監督 伊藤 秀郎
	フェンシング(フルール)	成年男子(全三重)	監督兼選手 松本 優			
8				テニス	少年女子(全三重)	監督 徳丸 真史 金山 敦史

個人種目

順位	競技名	種別	種目	記録	氏名	所 属 <ふるさと登録>	監督氏名	所 属
1	陸上競技	成年男子	走高跳	2m15	衛藤 昂	AGF鈴鹿(株)	山本 浩武 久保 幸弘	松阪商業高校 神戸高校
	水泳(競泳)	少年男子B	平泳ぎ100m	1分2秒81	谷口 卓	四日市市立三滝中学校	芝原 一平 八田 知宏	尾鷲高校 津田学園高校
	レスリング	成年男子	71-57kg級		高橋 侑希	総合警備保障(株) 《いなべ総合学園高校》	村田 知也	松阪工業高校
	レスリング	成年男子	71-61kg級		成園 大志	青山学院大学 《いなべ総合学園高校》	村田 知也	松阪工業高校
	レスリング	成年男子	71-65kg級		藤波 勇飛	山梨学院大学 《いなべ総合学園高校》	村田 知也	松阪工業高校
	レスリング	少年男子	71-66kg級		基山仁太郎	いなべ総合学園高校	藤波 俊一	いなべ総合学園高校
	セーリング	成年男子	レーザ級	15点	南里 研二	(公財)三重県体育協会	杉谷 典明	本田技研工業腳踏車製作所
	ウエイトリフティング	成年男子	94kg級クリーン&ジーク	182kg	太田 悠斗	九州国際大学 《四日市工業高校》	宮崎 彰也	四日市工業高校
	ウエイトリフティング	少年男子	85kg級スナッチ	125kg	柳川 友章	亀山高校	宮崎 彰也	四日市工業高校
	ウエイトリフティング	少年男子	85kg級クリーン&ジーク	154kg	柳川 友章	亀山高校	宮崎 彰也	四日市工業高校
2	ウエイトリフティング	少年男子	+105kg級スナッチ	140kg	横山太俊雅	四日市工業高校	宮崎 彰也	四日市工業高校
	ウエイトリフティング	少年男子	+105kg級クリーン&ジーク	185kg	横山太俊雅	四日市工業高校	宮崎 彰也	四日市工業高校
	馬術	成年女子	馬場馬術	66.631	奥西 真弓	名張乗馬クラブ	中村 洋子	北勢ウイングファーム
	水泳(競泳)	少年男子A	バタフライ200m	1分57秒87	阪本 祐也	三重高校	芝原 一平 八田 知宏	尾鷲高校 津田学園高校
	レスリング	少年男子	71-84kg級		横山深大朗	いなべ総合学園高校	藤波 俊一	いなべ総合学園高校
3	相撲	成年男子			城山 聖耀	東洋大学 《機部中学校》	山下 浩幸	鳥羽市立神島中学校
	馬術	成年女子	自由演技馬場馬術	69.525	奥西 真弓	名張乗馬クラブ	中村 洋子	北勢ウイングファーム
	陸上競技	成年女子	100m	11秒90	世古 和	飛馬クラブ 《宇治山田商業高校》	山本 浩武 久保 幸弘	松阪商業高校 神戸高校
	水泳(飛込)	成年男子	高飛込	400.50点	村上 和基	(公財)三重県体育協会	池田 庸祐	稻生高校
	ウエイトリフティング	成年男子	62kg級スナッチ	118kg	坂 典泰	四日市工業高校	宮崎 彰也	四日市工業高校
	ウエイトリフティング	成年男子	62kg級クリーン&ジーク	148kg	坂 典泰	四日市工業高校	宮崎 彰也	四日市工業高校
	ウエイトリフティング	少年男子	69kg級スナッチ	108kg	駒田 雅希	四日市中央工業高校	宮崎 彰也	四日市工業高校
4	自転車競技	少年男子	1km9/4h-15/17h	1分7秒127	五味 大征	皖高校	百々 敦史	朝明高校
	クレー射撃	トラップ		85	柏木 孝剛	(株)オーゲック	柏木 孝剛	(株)オーゲック
	陸上競技	少年男子A	5000m	14分1秒80	塩澤 稀夕	伊賀白鳳高校	山本 浩武 久保 幸弘	松阪商業高校 神戸高校
	陸上競技	成年男子	4x100mリレー	40秒52	諏訪 達郎、東 魁輝 川瀬 孝剛、中臨 裕也 山路旗太郎	中央大学、NTN(株) 日本体育大学、鈴鹿工業高専 四日市工業高校	山本 浩武 久保 幸弘	松阪商業高校 神戸高校
5	ウエイトリフティング	成年男子	85kg級スナッチ	136kg	山門 正宜	名古屋産業大学大学院	宮崎 彰也	四日市工業高校
	ウエイトリフティング	成年男子	94kg級スナッチ	141kg	太田 悠斗	九州国際大学 《四日市工業高校》	宮崎 彰也	四日市工業高校

個人種目

順位	競技名	種別	種目	記録	氏名	所 属 〈ふるさと登録〉	監督氏名	所 属
5	陸上競技	成年男子	100m	10秒42	諏訪 達郎	中央大学 《四日市工業高校》	山本 浩武 久保 幸弘	松阪商業高校 神戸高校
	水泳(競泳)	成年男子	自由形50m	22秒74	難波 暉	中京大学 《四日市市立常盤中学校》	芝原 一平 八田 知宏	尾鷲高校 津田学園高校
	水泳(飛込)	成年男子	飛板飛込	384.85点	村上 和基	(公財)三重県体育協会	池田 庸祐	稻生高校
	レスリング	女子	71-53kg級		角谷萌々果	至学館大学 《鳥羽市立鳥羽東中学校》	村田 知也	松阪工業高校
	レスリング	少年男子	71-74kg級		藤田 大貴	いなべ総合学園高校	藤波 俊一	いなべ総合学園高校
	ウイトリフティング	成年男子	85kg級クレーン&ジャーク	169kg	山門 正宜	名古屋産業大学大学院	宮崎 彰也	四日市工業高校
	ウイトリフティング	少年男子	69kg級クレーン&ジャーク	127kg	駒田 雅希	四日市中央工業高校	宮崎 彰也	四日市工業高校
	馬術	少年	団体障害飛越		長野 天祐、吹戸 真由 露藤 希実	高田高校	中村 洋子	北勢5行インダストリアル
カヌー	成年男子	スプリント・カナディアン・500m	1分59秒673	大城 海輝	(公財)三重県体育協会	濱口 洋輔	桑名西高校	
6	陸上競技	少年女子B	砲丸投	12m05	床辺 彩乃	多気町松阪市学校組合立 多気中学校	山本 浩武 久保 幸弘	松阪商業高校 神戸高校
	ウイトリフティング	成年男子	69kg級スナッチ	125kg	伊丹玲於奈	日本大学 《四日市工業高校》	宮崎 彰也	四日市工業高校
	自転車競技	成年男子	スプリント		中村 友哉	朝日大学 《院高校》	待田 浩一	(株)デンソー
	自転車競技	成年男子	個人ロード・レース	3時間17分 24秒6	阿曾 圭佑	(株)三好 《院高校》	待田 浩一	(株)デンソー
	馬術	成年男子	グランド	1分49秒37	中村 勇	北勢5行インダストリアル	中村 洋子	北勢5行インダストリアル
	カヌー	成年男子	スプリント・カナディアン・200m	44秒860	大城 海輝	(公財)三重県体育協会	濱口 洋輔	桑名西高校
	スキューバ	成年男子C	ジャイアントス50-A	1分10秒50	鳥山 真也	鳥山商事(株)	馬場 淳 前田 徹	富士電機㈱三重工場 第三銀行鶴方支店
7	陸上競技	成年男子	800m	1分54秒85	田中 智剛	AGF鈴鹿(株)	山本 浩武 久保 幸弘	松阪商業高校 神戸高校
	水泳(競泳)	成年男子	リレー200m	1分31秒85	難波 暉、前本 研大 三好 遼、荒木 優介	中京大学、筑波大学 愛知教育大学、早稲田大学	芝原 一平 八田 知宏	尾鷲高校 津田学園高校
	水泳(競泳)	少年女子B	平泳者100m	1分11秒70	石田 紅葉	久居高校	芝原 一平 八田 知宏	尾鷲高校 津田学園高校
	ウイトリフティング	女子	-63kg級クレーン&ジャーク	99kg	石井 未来	東京国際大学 《亀山高校》	宮崎 彰也	四日市工業高校
8	陸上競技	少年男子共通	三段跳	14m71	河出 恋貴	近畿大学工業高専	山本 浩武 久保 幸弘	松阪商業高校 神戸高校
	水泳(競泳)	少年男子A	自由形400m	4分0秒06	山本 健志	尾鷲高校	芝原 一平 八田 知宏	尾鷲高校 津田学園高校
	ボート	成年男子	シングル・スカル	3分44秒57	清水 大輔	中部電力(株) 《津高校》	伊藤 大輔	相可高校
	ウイトリフティング	成年男子	69kg級クレーン&ジャーク	150kg	伊丹玲於奈	日本大学 《四日市工業高校》	宮崎 彰也	四日市工業高校
	ライフル射撃	少年女子	BRS40JW	81.1	野末 綾菜	久居高校	安野 智也	久居高校

平成28年度競技力向上対策事業に係る実施報告及び成果

	事業名	取組の柱	取組内容	成果
①	ジュニア選手発掘事業	ジュニア・少年選手	スポーツ体験会、育成プログラム、教育プログラムを実施し、新たなジュニア選手を発掘。	体験会には293名、育成プログラムには77名、教育プログラムには42名が参加し、現在37名が競技活動の継続を希望している。
②	チームみえジュニア育成事業		競技団体が行うジュニア選手の育成活動を支援。	全国中学校体育大会における入賞件数は13件、全国高等学校総合体育大会における入賞件数は48件であった。
③	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業		活躍が期待できるジュニア選手を「チームみえジュニア」として指定するとともに、指導者への研修会を実施。	655名の「チームみえジュニア」を指定し、342名の小・中学生、308名の保護者、39名の指導者が指定証交付式及び研修会に参加し、チームみえの一員としての意識を醸成。
④	ジュニアクラブ強化指定事業		全国大会での活躍が期待できる中学生が所属するジュニアクラブを強化指定し、強化活動を支援。	全国レベルの中学生大会での入賞件数は15件であった。
⑤	中学校運動部強化指定事業		全国大会での活躍が期待できる中学校運動部を強化指定し、強化活動を支援。	全国中学校体育大会での入賞件数は13件であった。
⑥	中学生H30インターハイ強化事業		平成30年度全国高等学校総合体育大会に向け、県内トップレベルの中学校運動部の強化活動を支援。	全国中学校体育大会での入賞件数は13件であった。
⑦	高等学校運動部強化指定事業		全国大会での活躍が期待できる高等学校運動部を強化指定し、強化活動を支援。	全国高等学校総合体育大会での入賞件数は48件、国民体育大会での入賞件数は24件であった。
⑧	高校生H30インターハイ強化事業		平成30年度全国高等学校総合体育大会に向け、県内トップレベルの高等学校運動部の強化活動を支援。	全国高等学校総合体育大会での入賞件数は48件、国民体育大会での入賞件数は24件であった。
⑨	トップジュニア育成事業		世界大会等で活躍が期待できるジュニア選手を「チームみえスーパージュニア」として指定し、強化活動を支援。	強化活動の支援により、指定選手の国際大会での入賞5件、全国大会での優勝8件の実績につながった。
⑩	チームみえ国体選手強化事業	少年・成年選手共通	岩手団体での天皇杯順位10位台、総合得点1,100点の獲得に向け、入賞が期待できる競技団体の強化活動を支援。	岩手国体では68件入賞し、天皇杯順位は27位、皇后杯順位は39位。育成期の目標としていた10位台を達成することはできなかった。
⑪	トップ選手育成支援事業		競技団体が行う年間を通じた選手の強化活動や競技の普及活動等を支援。	国民体育大会を中心に年間を通じた計画的な強化活動の充実につながった。
⑫	女性アスリートサポート事業		女性アスリートが抱える諸課題について、指導者の知識習得や意識向上を図るとともに、サポート体制を構築。	研修会を2回、相談窓口を28回、専門家派遣を2回実施し、女子アスリート特有の諸課題について調査するとともに、サポートを行った。
⑬	女性アスリートタレント発掘事業		優れた資質のある女子ジュニア選手を発掘し、教育プログラムや専門プログラムを実施し、世界大会で活躍する選手を育成。	1次2次と2回のオーディションを経て、6名(応募者18名中)を選抜し、1月に1期生として認定を行った。認定後、専門・教育・育成プログラムを実施し育成を行っている。
⑭	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手	全国大会で活躍が期待される大学運動部、企業・クラブチームを強化指定し、強化活動を支援。	強化指定している陸上競技、サッカー競技、体操競技、馬術競技、ラグビーフットボール競技、弓道競技が国民体育大会で入賞。【入賞件数:9件、獲得得点:104点】
⑮	成年選手強化指定事業		世界大会で活躍が期待できる成年選手を強化指定し、強化活動を支援。	強化指定選手として出場した、相撲競技、レスリング競技、ウエイトリフティング競技、フェンシング競技が国民体育大会で入賞。【入賞件数:4件、獲得得点:40点】
⑯	スポーツ指導員配置事業		ジュニア・少年選手の競技力向上及び指導者の資質向上を図るため、トップアスリートを指導者として配置。	スポーツ指導員が選手として出場した、水泳競技(飛込)、セーリング競技、カヌー競技が国民体育大会で入賞。【入賞件数:5件、獲得得点:25点】
⑰	トップアスリート就職支援事業		全国大会で活躍するトップアスリートに対し、県内企業への就職支援を実施。	県内企業に対し、トップアスリートの採用依頼を行った結果、10名の就職内定を得ることができた。
⑱	チームみえ指導者研修事業	指導者	三重県代表チームを指導する監督、コーチ、スタッフへの研修会を実施。	国民体育大会の監督及び関係者が指導理論の習得や意識醸成の機会を得て、目標の共有することができた。
⑲	強化指定運動部、チーム指導者研修事業		指導者の資質向上に向け、強化指定した運動部・チームの指導者への研修会を実施。	スポーツ心理学の研修に取り組むことで、計画的なチームづくりへの意識醸成を図ることができた。
⑳	公認スポーツ指導者養成事業		指導者の資質向上に向け、公認スポーツ指導者資格の取得を促進。	競技団体からの推薦により、11名が資格取得を予定している。
㉑	特別コーチ派遣事業		競技力向上に向け、優れた指導者やオリンピック選手を年間コーチ、ワンポイントコーチとして競技団体の強化活動に派遣。	特別コーチを派遣した、陸上競技、テニス競技、スキー競技が国民体育大会で入賞。【入賞件数:10件、獲得得点:40点】
㉒	環境整備補助事業	環境整備	競技力向上に向け、強化活動に必要な特殊用具備品を整備。	備品を整備したボート競技、セーリング競技、ライフル射撃競技、ウエイトリフティング競技、馬術競技が国民体育大会で入賞。【入賞件数:22件、獲得得点:119点】
㉓	医・科学スタッフ派遣事業		競技力向上に向け、競技団体が実施する強化活動に医・科学スタッフを派遣。	競技会にトレーナーを帯同したことにより、コンディショニングへの意識醸成を図ることができた。陸上競技、水泳競技、テニス競技が国民体育大会で入賞。【入賞件数:16件、獲得得点:82点】
㉔	みえのアスリート応援・発信事業	づくり	三重県代表選手を紹介する広報誌の発行及び三重県選手団のポロシャツの作成。	広報誌発行等により、県民への競技力向上の取組や選手の活躍をPRすることができた。

女性アスリートタレント発掘・育成事業に係る進捗状況

1 第7回競技力向上対策委員会以降の進捗報告

	年月日	会議名	主な決定事項及び検討内容
①	平成28年9月15日	第2回選考部会（書面協議）	1次オーディションの通過者原案の作成
②	平成28年9月27日	第2回プログラム部会	教育・育成プログラムのカリキュラム内容の検討
③	平成28年9月27日	第2回運営委員会	1次オーディション通過者16名を決定 2次オーディション詳細を決定 教育・育成プログラムのカリキュラム内容の協議
④	平成28年11月8日	第3回選考部会	2次オーディションの準備
⑤	平成28年11月13日	2次オーディション	2次オーディションの実施 12名参加
⑥	平成28年12月15日	第4回選考部会	2次オーディション通過者原案の作成
⑦	平成28年12月21日	第3回プログラム部会	教育・育成プログラムの年間計画、担当者の検討
⑧	平成28年12月21日	第3回運営委員会	2次オーディション通過者6名の決定 教育・育成プログラムの年間計画、担当者の決定
⑨	平成29年1月8日	認定証授与式 第1回教育・育成プログラム	6名をMIEスーパー☆（スター）ガールに認定 スポーツ医・科学（女性）プログラム「運動と内科的障害について」
⑩	毎週水曜日と土曜日		専門プログラム（ラグビーフットボール）の実施
⑪	平成29年2月4日	第2回教育・育成プログラム	基礎体力向上プログラム「体力測定」
⑫	平成29年3月11日	第3回教育・育成プログラム	基礎体力向上プログラム「基礎体力向上～速く走る～」 スポーツ医・科学（栄養）「食事の重要性」
⑬	平成29年3月23日	第8回競技力向上対策委員会	進捗状況の報告

2 今後の計画（案）

6月 第1回プログラム部会、第1回運営委員会

7月 タレントの募集開始（～9月末日）

10月 1次オーディション実施

第2回運営委員会「1次オーディション通過者の決定」

11月 2次オーディション実施

12月 第3回運営委員会「タレントの決定」

1月 認定証授与式

※週2回程度の専門プログラムの継続実施

※年20コマ程度の教育・育成プログラムの継続実施

3 事業の様子

(1) 認定証授与式の様子



知事挨拶



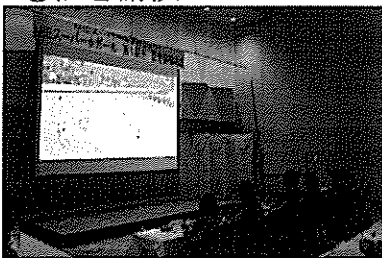
認定証授与



MIEスーパー☆ガール1期生

(2) 教育・育成プログラムの様子

① 記念講演

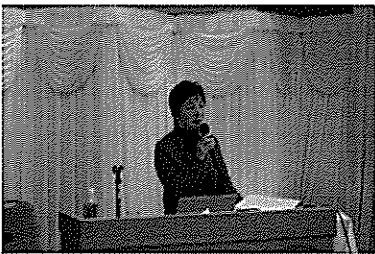


「日本女子ラグビーが戦う世界と新たな挑戦者たちへ」
日本ラグビーフットボール協会 7人制日本代表
ヘッドコーチ代行 稲田 仁氏 ビデオメッセージ



「スポーツタレント発掘・育成事業とは
～コーチングマインドを育てる～」
仙台大学教授 粟木 一博氏

② スポーツ医・科学プログラム



「運動と内科的障害について」
三重大学教授 小川 朋子 氏

(3) 専門プログラム



ラグビーフットボールに取り組む様子

審議事項

チームみえジュニア育成事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【15,640千円】

1 目的

将来有望なジュニア選手（小・中学生）を「チームみえジュニア」として育成することで、その強化活動を支援し、長期的な競技力の向上を図ることを目的とする。

2 対象

三重県体育協会加盟の国民体育大会正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

- (1) 各競技団体が取り組む、将来有望なジュニア選手の育成活動（チームみえジュニア）を支援するため、必要な経費を配分する。
- (2) 強化費の配分については、各競技団体の強化計画と競技実績に応じた配分をする。また、三重とこわか国体に向けたジュニアの活動についても考慮する。その他、必要に応じてヒアリング等により調整を行う。
- (3) チームみえジュニアの育成に対して実施する強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- | | |
|------|-----------|
| 4月 | 強化費の配分額決定 |
| 5～3月 | 強化活動支援 |

チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【1,496千円】

1 目的

全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手（小・中学生）を「チームみえジュニア」として指定し、ジュニア選手の意識醸成を図るとともに、競技団体、指導者、保護者が一体となって、ジュニア選手の育成・強化を図ることを目的とする。

2 対象

県内競技団体からの推薦を受け、全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手とその指導者・保護者とする。

3 実施内容

(1) 指定証の交付

指定するジュニア選手に対し、三重県競技力向上対策本部長（知事）から、「チームみえジュニア指定証」を交付する。

(2) 研修プログラム

①全体会

・「チームみえジュニア」としての意識醸成を目的とした研修を実施する。

②研修会

[ジュニア選手・指導者対象]

・選手間の交流を図るとともに、本県を代表する選手としての自覚を促すプログラムを実施する。

[保護者対象]

・ジュニア選手のサポート体制の充実を図るプログラムを実施する。

4 年間計画

6～7月 「チームみえジュニア指定証」交付式、研修会の開催

ジュニアクラブ強化指定事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【2, 837千円】

1 目的

三重とこわか国体において、少年種別の中心となる中学生選手の育成・強化を目指し、その強化活動を支援することで、中学生選手の長期的な競技力の向上を図ることを目的とする。

2 対象

国民体育大会の正式競技で中学生選手が在籍する県内のジュニアクラブとする。

3 実施内容

(1) 指定期間

平成29年4月から平成30年3月までの単年度指定とする。

(2) 指定方法

各競技団体は、県内高等学校運動部との連携を図りながら、三重とこわか国体に向けた強化を進め、今後の活躍が期待できる中学生選手が所属するジュニアクラブを推薦することができる。三重県競技力向上対策本部は、推薦を受けたジュニアクラブを選考し、指定する。

(3) 補助対象

強化指定ジュニアクラブに対しては、全国大会での活躍を目的とした中学生選手の強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

4月	強化指定ジュニアクラブの決定
5～3月	強化活動支援

ジュニアクラブ強化指定事業強化指定候補クラブ推薦要領（案）

各競技団体は、本推薦要領に基づき、三重県競技力向上対策本部に強化指定ジュニアクラブを推薦することとする。

1 対象

国民体育大会の正式競技で中学生選手が在籍する県内のジュニアクラブとする。

2 推薦基準

県競技団体のジュニア選手の育成・強化方針の中に位置づけられ、三重とこわか国体に向けた競技力向上に寄与する見込みがあるジュニアクラブとする。

3 推薦方法

(1) 県競技団体は、推薦基準に基づき、該当するジュニアクラブと協議のうえ、1クラブを三重県競技力向上対策本部に推薦する。

(2) 推薦するジュニアクラブは、原則として男子、女子で区別し、いずれか1部とする。ただし、同じジュニアクラブにおいて男女合同で活動している場合は、実態に応じひとつのジュニアクラブとする。

※複数の拠点（教室・道場・支部等）で活動しているジュニアクラブでも、推薦ができるのは1拠点とする。

※推薦を受けたジュニアクラブにおいても、活動人数・活動状況の実態等が十分でないと思われる場合は、指定を行わないこともある。

【強化指定ジュニアクラブの考え方】

有力な中学生選手が複数在籍しており、過去3年間の全国大会で入賞実績があるジュニアクラブとする。また、県内高等学校とも連携を図りながら、三重とこわか国体に向けて、少年種別の候補選手となる中学生選手の育成・強化が十分見込めるジュニアクラブとする。

平成29年度ジュニア強化指定クラブ（案）

競技名	ジュニアクラブ名
水泳（競泳）	津田スイミングスクール四日市校
水泳（シンクロ）	みえシンクロ
水泳（水球）	三重ウォーターポロスターズ
水泳（飛込）	三重ダイビングクラブ
テニス	三重グリーンテニスクラブ
ボクシング	四日市ボクシングジム
体操（競技）	相好体操クラブ
レスリング	一志ジュニアレスリング教室
ウエイトリフティング	みえウエイトリフティングジュニアクラブ
相撲	津相撲クラブ
フェンシング	鳥羽フェンシングクラブ

11クラブ

中学校運動部強化指定事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【1,964千円】

1 目的

三重とこわか国体で少年種別の中心となる中学生選手の育成・強化を図り、その強化活動を支援することで、中・長期的な中学生選手の競技力向上を図る。また、高等学校運動部との連携を促し、ジュニア・少年選手の強化を行う。

2 対象

三重県中学校体育連盟（以下、「県中体連」という。）加盟の競技専門部に所属の中学校運動部とする。

3 実施内容

(1) 指定期間

平成29年4月から平成30年3月までの単年度指定とする。

(2) 指定方法

三重県競技力向上対策本部（以下、「対策本部」という。）は、県中体連が推薦する強化指定候補運動部について、三重県教育委員会と協議し、指定を行う。

※対策本部が必要と認めた場合は、指定する中学校運動部の追加、または指定の変更や取り消しを行うことがある。

(3) 補助対象

強化指定運動部に対して、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

4月上旬	強化指定運動部の決定
4月～3月	強化活動の支援

中学校運動部強化指定事業強化指定候補運動部推薦要領（案）

三重県中学校体育連盟（以下、「県中体連」という。）は本推薦要領に基づき、三重県競技力向上対策本部に中学校強化指定候補運動部を推薦することとする。

1 対象

国民体育大会の正式種目のうち、県中体連加盟の競技専門部に所属の中学校運動部とする。

2 推薦基準

県競技団体のジュニア選手の育成・強化方針の中に位置づけられ、三重とこわか国体に向けた競技力向上に寄与する見込みがある中学校運動部とする。

3 推薦方法

- (1) 県中体連の各競技専門部は、推薦基準に基づき、県競技団体および該当中学校と協議のうえ中学校運動部を県中体連に推薦する。
- (2) 推薦する中学校運動部は、原則として男子、女子で区別し、いずれか1部とする。ただし、同じ中学校において男女合同で活動している運動部については、実態に応じてひとつの運動部とする。

【強化指定推薦運動部の考え方】

全国中学校体育大会での入賞や東海中学校体育大会での優勝等の実績があり、三重とこわか国体に向けて、少年種別の候補選手となる中学生選手の育成・強化が十分見込める運動部とする。

平成29年度中学校強化指定運動部（案）

競技名	男子	女子
陸上競技	多気町松阪市学校組合立多気中学校	
ソフトテニス	紀宝町立矢淵中学校	-
ソフトボール	-	度会町立度会中学校
バドミントン	-	伊勢市立小俣中学校

4校4部

高等学校運動部強化指定事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【19,990千円】

1 目的

三重とこわか国体などの全国・国際スポーツ競技大会において活躍するトップアスリートの育成を目指して、育成・強化の中心となることが期待できる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援することで、高校生アスリートの競技力向上を図ることを目的とする。

2 対象

次のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技であり、三重県高等学校体育連盟（以下、「県高体連」という。）に加盟する競技専門部、または三重県体育協会に加盟する競技団体（以下、「県競技団体」という。）に所属する高等学校運動部
- (2) 三重県高等学校野球連盟（以下、「県高野連」という。）に所属する高等学校硬式野球部

3 実施内容

(1) 指定期間

- ①指定期間は、三重県競技力向上対策基本方針に基づき、次の3期とする。
 - ・第1期：平成26年度～平成27年度（基盤・体制づくり期）
 - ・第2期：平成28年度～平成30年度（育成期）
 - ・第3期：平成31年度～平成33年度（躍進期）
- ②指定を受けた高等学校運動部は、原則として、各期の最終年度まで継続して指定し、各期の最終年度に、見直すこととする。
- ③指定期間内にあっても、三重県競技力向上対策本部（以下「対策本部」という。）が必要と認めた場合は、指定する高等学校運動部の追加、または指定の取り消しを行うことがある。
- ④硬式野球競技については、単年度の指定とする。

(2) 指定方法

対策本部は、県高体連、または県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体から推薦を受けた高等学校運動部を指定候補として、三重県教育委員会（以下「県教委」という。）と協議したうえで、次のように指定する。

- ①指定候補について、活動状況や直近3年間の競技実績、指定期間中の全国大会における入賞の見込等を踏まえて、下記のとおり区分して指定する。また、この指定区分は、年度ごとに見直すこととする。
 - ・S強化指定運動部：全国大会において、上位入賞が期待できる運動部
 - ・A強化指定運動部：全国大会において、入賞が期待できる運動部
 - ・B強化指定運動部：全国大会において、将来、活躍が期待できる運動部

なお、指定候補であっても、活動状況や大会における実績等から、この方針の目的に合致しないと判断する場合は、指定しないことがある。

②指定候補以外でも、この方針の目的に合致すると認められる高等学校運動部を県高体連等と協議のうえ、指定することができる。

なお、硬式野球競技については、県高野連から、平成29年度に全国大会において活躍が期待できる高等学校硬式野球部の推薦を受け、対策本部が県教委と協議したうえで、「高等学校硬式野球特別指定運動部」として指定する。

(3) 補助対象

強化指定運動部に対して、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要なと認めた経費に対する補助を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

3月下旬	強化指定運動部の決定
4月	指定証交付式
4月～3月	強化活動の支援

高等学校運動部強化指定事業強化指定候補運動部推薦要領（案）

1 対象

下記のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技で、三重県高等学校体育連盟（以下、「県高体連」という。）に加盟する競技専門部、または三重県体育協会に加盟する競技団体（以下、「県競技団体」という。）に所属する高等学校運動部
- (2) 三重県高等学校野球連盟（以下、「県高野連」という。）に所属する高等学校硬式野球部

2 推薦基準

- (1) 三重とこわか国体などの全国・国際スポーツ競技大会において活躍するトップアスリートの育成に向けて、少年種別における強化の中心となることが期待できる高等学校運動部であること。
- (2) 硬式野球競技については、平成29年度に全国大会において活躍が期待できる高等学校硬式野球部であること。

3 推薦方法

- (1) 県高体連の各競技専門部は、推薦基準に基づき、県競技団体と十分協議のうえ、高等学校運動部を県高体連に推薦する。
- (2) 県高体連は、各競技専門部の推薦を取りまとめ、三重県競技力向上対策本部（以下、「対策本部」という。）に推薦する。
- (3) 県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体が推薦基準に基づき、対策本部に推薦する。
- (4) 推薦する高等学校運動部は、原則として、男子、女子で区別し、それぞれで1部とする。ただし、同じ高等学校で男子、女子ともに推薦基準を満たし、かつ、男女合同で活動している運動部については、男女を区別することなく、ひとつの運動部として推薦することができる。
- (5) 硬式野球競技については、県高野連が1部を上限に、対策本部に推薦する。

	競技名	強化指定運動部	
		男子	女子
1	陸上競技	宇治山田商業	
		四日市工業	松阪商業
		久居	—
		伊賀白鳳	四日市商業
2	水泳(競泳)	津田学園	
		尾鷲	
	水泳(飛込)	—	—
	水泳(水球)	四日市中央工業	—
	稲生	—	
	水泳(シクロタイムトライズ)	—	—
3	サッカー	四日市中央工業	三重
4	テニス	四日市工業	四日市商業
5	ボート	—	—
6	ホッケー	白子	—
7	ボクシング	久居	
		明野	—
8	バレーボール	松阪工業	津商業
			三重
9	体操(競技)	暁	
	体操(新体操)	—	—
10	バスケットボール	四日市工業	四日市商業
			いなべ総合学園
11	レスリング	いなべ総合学園	—
		朝明	—
12	セーリング	津工業	—
13	ウェイトリフティング	亀山	
		四日市工業	—
		四日市中央工業	—
14	ハンドボール	四日市工業	四日市商業
15	自転車	朝明	—
16	ソフトテニス	三重	三重
17	卓球	高田	高田
		白子	
18	相撲	宇治山田商業	—
19	馬術	高田	
20	フェンシング	海星	津東
21	柔道	四日市中央工業	—
		名張	名張
22	ソフトボール	四日市工業	伊勢学園
			津商業
23	バドミントン	皇學館	
		暁	
24	弓道	松阪工業	伊勢学園
25	ライフル射撃	久居	
26	剣道	三重	鈴鹿
27	ラグビーフットボール	朝明	朝明
		四日市工業	—
28	山岳	—	—
29	カヌー	桑名西	
30	アーチェリー	四日市四郷	
31	空手道	—	四日市商業
32	銃剣道	皇學館	—
33	クレー射撃	—	—
34	なぎなた	—	稲生
35	ボウリング	津田学園	—
36	ゴルフ	津田学園	
		三重	—
37	スケート	—	—
38	アイスホッケー	—	—
39	スキー	—	—
40	軟式野球	高田	—
41	硬式野球	海星	—

計

68部

トップジュニア育成事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【3,000千円】

1 目的

県民の皆さんからの寄附金を財源として、全国大会等で優秀な成績を収め、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待されるジュニア選手を対象に、強化活動を支援することにより、選手の育成・強化を図ることを目的とする。

2 対象

国民体育大会やオリンピックの正式種目で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる県内中学校及び高等学校に在籍する選手とする。

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

三重県競技力向上対策本部長（知事）は、競技団体の推薦を受けて、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待される本県の中学生及び高校生の選手を強化指定する。

(2) 補助対象

強化指定選手に対しては、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、県外遠征等の旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が強化活動に必要なと認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

4月から随時	寄附金の募集
5月	第1次強化指定選手の推薦・選定
6月上旬	第1次強化指定選手の決定
9月	第2次強化指定選手の推薦・選定
10月上旬	第2次強化指定選手の決定

トップジュニア育成事業に係る「チームみえスーパージュニア」
指定候補選手推薦要領（案）

1 対象

国民体育大会やオリンピックの正式種目で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる県内中学校および高等学校に在籍する選手とする。

2 推薦基準

全国大会で優秀な成績を収め、今後も全国大会や国際大会などの大規模な大会において活躍が期待され、次の基準を満たしている選手とする。

- (1) 平成28年度もしくは29年度の全国大会*¹で優勝、または、平成27年度の国際大会*²で3位入賞以上の実績があり、平成28年度に日本代表として国際大会*²への出場が決定（内定）している。
- (2) 団体競技は、平成29年度に日本代表として、国際大会*²に出場するなど、顕著な活躍が見られる選手も対象とする。
- (3) この他、平成29年度に特に顕著な実績を収めた選手がいる場合は、三重県競技力向上対策本部が別途指定する。

* 1 全国大会

- ① 国民体育大会
- ② 全国中学校体育大会、ジュニアオリンピック
- ③ 全国高等学校総合体育大会
全国高等学校選抜選手権大会
- ④ ①・②・③と同じ競技レベルと認められる大会

* 2 国際大会

- ① 世界ジュニア・ユース大会、
アジアジュニア・ユース大会
- ② ①と同じ競技レベルと認められる大会

3 推薦方法

- (1) 各競技団体は、上記2の推薦基準を満たすと判断できる場合、三重県競技力向上対策本部に対象となる選手を推薦することができる。
- (2) 県内に競技団体がないオリンピック正式種目のうち、上記2の推薦基準を満たすと判断できる場合は、所属する団体（クラブチーム等）より、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

4 その他

指定選手の選考については、各競技団体等の推薦があった選手をもとに、競技実績・活動状況等により、三重県競技力向上対策委員会で行う。

チームみえ国体選手強化事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【81,981千円】

1 目的

平成29年度愛媛国体において男女総合成績（天皇杯順位）10位台の獲得と総合得点1,100点をめざすため、活躍が期待できる本県代表選手（チームみえ）に対し、重点的な強化に取り組むことを目的とする。

2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

- (1) 各競技団体における事業計画書を基に、種別ごとに区分を行う。
- (2) A・B群に区分された競技種別に対して、愛媛国体における競技成績の見込や強化計画等に基づき、重点的に強化費を配分し、競技団体が実施する国民体育大会に向けた強化活動を支援する。
- (3) 支援期間は一年間とするが、東海ブロック大会後、本国体後に必要に応じて強化計画の見直しを行う。
- (4) 各競技団体は、平成29年度愛媛国体、平成30年度福井国体で成果があげられるよう、本大会に重点を置いた強化活動を進めることとする。
- (5) 支援する経費は、旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費、全国トップレベルのチームの招聘に係る経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要なと認めた経費とする。
- (6) C・D群に区分された競技種別であっても、東海ブロック大会、本国体の競技成績によっては、強化費を配分することがある。

4 年間計画

4月	額の内示 強化計画に係る申請書の提出 実施事業の支援（4月～東海ブロック大会～国体）
7～10月	国体の競技成績による強化計画の見直し 実施事業の支援（国体～3月）

※ 区分について

	区分の目安	取組
A群	安定して得点しており、平成33年まで引き続き得点が見込め、さらに上位入賞を狙うことができる競技、種別。	さらに上位入賞を狙うために必要な取組を行います。
B群	国体で入賞レベルに達してきており、平成29年愛媛国体で入賞を狙うことができる競技、種別。	確実に入賞するために必要な取組を行います。
C群	本国体で2～3年先に確実に入賞できるレベルに到達することを狙う競技、種別。	中長期の計画的な取組を行います。
D群	強化体制の整備を必要としており、主体的な強化に取り組めるようにする必要がある競技、種別。	主体的に強化が図れるよう、自立にむけた取組を行います。

トップ選手育成支援事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【17,987千円】

1 目的

育成期において、各競技団体の年間を通じた選手強化や普及活動等を支援し、全国大会入賞レベル相当の競技力獲得及び競技普及を図ることを目的とする。

2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

- (1) 各競技団体における事業計画書を基に、種別ごとに区分を行う。
- (2) C・D群に区分された競技種別に対し、三重とこわか国体に向けた強化計画や年度目標等に基づき、計画的に強化費を配分し、競技団体が実施する国民体育大会に向けた強化活動を支援する。
- (3) 支援期間は一年間とし、各競技団体が年間を通じて取り組む計画的な強化及び普及活動を支援する。
- (4) 各競技団体は、2～3年先に成果があげられるよう、計画的・戦略的に強化活動を進めることとする。
- (5) 支援する経費は、旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費、全国トップレベルのチームの招聘に係る経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。
- (6) 東海ブロック大会、本国体において目覚ましい成果が見られた場合、チームみえ国体選手強化事業により、強化費を配分することがある。

4 年間計画

4月 額の内示
以降 強化計画に係る申請書の提出
実施事業の支援

※区分について

	評価の目安	取組
A群	安定して得点しており、平成33年まで引き続き得点が見込め、さらに上位入賞を狙うことができる競技、種別。	さらに上位入賞を狙うために必要な取組を支援します。
B群	国体で入賞レベルに達してきており、平成29年愛媛国体で入賞を狙うことができる競技、種別。	確実に入賞するために必要な取組を支援します。
C群	本国体で2～3年先に確実に入賞できるレベルに到達することを狙う競技、種別。	中長期の計画的な取組を支援します。
D群	未成熟で強化体制の整備を必要としており、主体的な強化に取り組めるようにする必要がある競技、種別。	主体的に強化が図れるよう、自立にむけた取組を支援します。

女性アスリートサポート事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【699千円】

1 目的

女性アスリートが競技を継続して取り組めるよう、女性特有の諸課題について女性アスリート、指導者及び保護者など関係者が知識習得や意識向上を図ることで、サポート体制の構築を図ることを目的とする。

2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体およびその団体に所属する女性アスリート、指導者及び保護者等とする。
（新たに正式競技として導入される競技を含む）

3 実施内容

女性アスリート、指導者及び保護者向けの研修会を開催し、女性アスリートが継続して競技に取り組むうえでの不安や悩みの解消に繋がる知識習得や意識向上を図る。

4 年間計画

6月～12月 女性アスリート、指導者、保護者向けの研修会実施

女性アスリートタレント発掘・育成事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【8,000千円】

1 目的

優れた資質を有する女子小中学生を発掘し、様々なプログラムを通じて育成することで、国民体育大会をはじめとした国内大会やオリンピック、ワールドカップなどの国際大会において活躍することができるアスリートの輩出を目的とする。

また、トップアスリートに必要な資質である高い意識や行動力を培うことで、社会生活の様々な場面でリーダーとして活躍できる人材として育成を図ることを目的とする。

2 対象（競技）

第71回岩手国体以降の女子種別において、新たに正式種目になる競技のうちの1競技とする。

3 実施内容

- (1) 三重県競技力向上対策本部が県関係者、市町関係者、スポーツ団体関係者、学識経験者、競技団体関係者（中央競技団体、県競技団体）、日本スポーツ振興センター等と連携した運営委員会を行うとともに、プログラム部会と選考部会を行う。
- (2) 運営委員会にて、事業の内容及び計画及びタレントの選考等を決定する。
- (3) プログラム部会にて、育成プログラムの内容及び計画等を決定する。
- (4) 選考部会にて、オーディションの実施及びタレントの選考原案の作成を行う。
- (5) 実施競技団体は事務局と連携し、主体的に事業を実施する。

4 年間計画

- 6月 第1回運営委員会「年間事業計画の決定」
 - 7月 タレントの募集開始（～9月末日）
 - 10月 1次オーディション実施
 - 11月 2次オーディション実施
 - 12月 第2回運営委員会「タレントの決定」
 - 1月 認定証授与式
- ※週3回程度の専門プログラムの継続実施
※年20コマ程度の教育・育成プログラムの継続実施

大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【9,999千円】

1 目的

三重とこわか国体において、天皇杯・皇后杯の獲得を目指すため、平成33年に各競技の成年種別で中心となり、且つ平成29年の愛媛国体以降に活躍が期待できるチームの指定を行い、成年選手の重点的な競技力向上を図ることを目的とする。

2 対象

国民体育大会の正式競技に取り組んでいる大学運動部、企業・クラブチーム等（以下、「チーム」という。）とする。

3 実施内容

(1) 指定期間

平成29年4月から平成30年3月までの期間とする。

(2) 指定基準

三重とこわか国体に向けて、競技団体が強化の中心として位置づけ、国民体育大会での活躍が期待できるチーム。ただし、次の①～③に該当するチームで、競技団体が主体となるチームを除く。

- ①団体競技（チームスポーツ）は、国民体育大会（東海ブロック大会を含む）のエントリー数の半数以上を占めているチーム。
- ②団体競技（チームスポーツを除く）は、団体チームとして大会に出場しているチーム。
- ③個人競技は、複数の選手が在籍するチーム。

(3) 指定方法

強化指定チームについては、三重県競技力向上対策本部が所属競技団体と協議を行ったうえで、三重県競技力向上対策委員会において決定する。

【A強化指定】

三重とこわか国体で中心となり、平成29年の愛媛国体において入賞できるチーム。

【B強化指定】

三重とこわか国体で中心となり、平成29年の愛媛国体において入賞が期待できるチーム。

【C強化指定】

- ①三重とこわか国体で中心となり、三重とこわか国体において入賞が期待できるチーム。
- ②国民体育大会（東海ブロック大会を含む）に出場できていない成年種別において、前年度に新たにチーム結成を行い、三重県代表として出場するチーム。

(4) 補助対象

指定されたチームには、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

5月 指定証交付
随時 強化活動支援

東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業 実施方針（案）

平成29年度予算【1,800千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートを強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、東京オリンピック競技大会及び三重とこわか国体等に向けた成年選手の競技力向上を推進することを目的とする。

2 対象

三重とこわか国体における正式競技に取り組んでいる大学生及び社会人で、次に掲げる条件を満たす者とする。

- ①「チームみえ」の一員として、三重とこわか国体での活躍が特に期待できる者
- ②東京オリンピック競技大会や世界選手権大会等の世界大会での活躍が期待できる者

ただし、東京オリンピック競技大会の正式競技以外の競技に取り組んでいる選手については、条件①のみを満たすこととする。

3 実施内容

- (1) 強化指定選手の決定については、別途定める「東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業 選考要領」において、三重県競技力向上対策本部が行う。
- (2) 指定については、平成29年4月から平成30年3月までの単年度指定とする。
- (3) 補助対象については、全国・国際スポーツ大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- 4月 強化指定選手の選考及び決定
- 5月 強化指定証交付式
- 随時 強化活動支援

東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業 選考要領（案）

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業」に係る強化指定選手を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

2 選考委員等

- (1) 選考委員は、三重県競技力向上対策委員会の委員とする。
- (2) 選考の事務局は、三重県競技力向上対策本部内に設置する。
- (3) 選考の依頼は、三重県競技力向上対策本部事務局長が行う。

3 選考基準

選考は、「東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業実施方針」の目的及び対象を踏まえることとし、選考にあたっては、次の点に留意するものとする。

なお、大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業の指定チームに所属する者、スポーツ指導員配置事業の指導員、勤務している企業から強化費の支援を受けている者については対象外とする。

【継続指定枠】

平成28年度に指定を行った者で、三重県代表選手の一員として平成29年度愛媛国体（以下、「愛媛国体」という。）以降の大会において入賞が見込める者

【新規指定枠】

- ①平成28年度に開催された全日本選手権大会において3位以上の成績を収めた者で、三重県代表選手の一員として愛媛国体以降の大会において入賞が見込める者
- ②全国高等学校総合体育大会及び国民体育大会において優勝した者で、三重県代表選手の一員として愛媛国体以降の大会において入賞が見込める者

4 選考方法

選考委員は、強化指定候補選手について、三重とこわか国体や東京オリンピック競技大会等での活躍が期待される強化指定候補選手の実績や今後の期待度を総合的に判断し、選考を行うこととする。

なお、決定には、選考委員の過半数の同意を必要とする。

東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業に係る強化指定選手(案)

	名前	年齢 (学年)	所属	専門競技	指定枠
1	藤波 勇飛	20 (3年)	山梨学院大学	レスリング	継続指定枠
2	石井 未来	19 (2年)	東京国際大学	ウエイトリフティング	継続指定枠
3	城山 聖羅	19 (2年)	東洋大学	相撲	継続指定枠
4	成國 大志	19 (2年)	青山学院大学	レスリング	新規指定枠
5	向田 真優	19 (2年)	至学館大学	レスリング	新規指定枠

* 年齢及び学年は、平成29年4月1日現在のものとする。

スポーツ指導員配置事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【19,121千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートを、競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣することで、本県選手の競技力向上を図るとともに、現役のトップアスリートとして成年選手の競技力向上を図ることを目的とする。

2 対象

三重とこわか国体の正式競技に取り組んでいる現役の成年選手で、次に掲げる条件のいずれも満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民体育大会において入賞、もしくは入賞に導く能力及び指導力を有する者とする。

①国民体育大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会に出場し、個人は3位以上、団体は8位以上の成績を収めた者

②将来、本県選手の指導者としての活躍が期待できる者

※本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。

※成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

3 実施内容

(1) スポーツ指導員の採用については、三重県競技力向上対策本部及び三重県体育協会が競技を行ったうえで決定する。

(2) 三重県体育協会は、指導員の勤務管理を行うとともに、本県選手の競技力向上を図るため、スポーツ指導員を競技団体が実施する強化練習や合宿等の活動現場に派遣する。

(3) スポーツ指導員の活動に係る旅費については、予算の範囲内で支出する。

4 年間計画

4月 協定書の締結

4月～ 日々の活動現場及び強化練習や合宿等の活動現場への派遣

トップアスリート就職支援事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【14,500千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートに対し、県内企業への就職支援を行うことで、三重とこわか国体において天皇杯・皇后杯を獲得するとともに、大会終了後も安定した競技力を確保することを目的とする。

2 対象選手

三重とこわか国体の正式競技に取り組んでいる選手及び指導者で、次に掲げる条件のいずれかを満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民体育大会において入賞、もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

① 国民体育大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会に出場し、個人・団体ともに8位以上の成績を収めた者

② 本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者

※成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

3 対象企業

県内に本社または事業所を有し、全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートを採用する意思のある企業とする。

4 実施内容

(1) 三重とこわか国体に向けた成年選手強化に係る取組を県内企業に説明し、トップアスリートの採用依頼を行う。

(2) 求人・求職に係る情報の管理を行う。

(3) 競技団体から推薦のあったトップアスリートに対し、エントリーシートをもとに、書類審査を行う。

(4) 社業と競技活動の両立が図れるよう、トップアスリートに対し、面談を行う。

(5) 企業及びトップアスリートにとって有益なマッチングが図れるよう、調整を行う。

(6) 企業及びトップアスリートに推薦者・推薦企業の打診を行う。

(7) 採用選考の調整を行う。

(8) トップアスリートが培ってきた知識や経験を発揮するとともに、競技活動にも集中して取り組めるよう、企業に対し、フォローアップを行う。

5 年間計画

4月～	トップアスリートの採用依頼
随時	求人・求職に係る情報の管理
	面談の実施
	マッチングの調整
	推薦者・推薦企業の打診
	採用選考の調整
	フォローアップの実施

強化指定運動部、チーム指導者研修事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【1, 195千円】

1 目的

平成29年度に強化指定する運動部、チームの指導者に対し研修を実施することで、専門競技の異なる指導者との連携を図るとともに、指導者としての資質の向上を図ることを目的とする。

2 対象

平成29年度に強化指定する運動部、チームの指導者とする。

3 実施内容

- (1) 本事業においては、県内研修会において、最新の指導理論や指導方法を習得するとともに、専門競技の異なる指導者との連携を図り、本県競技力向上の中核を担う指導者としての意識の醸成を図る。
- (2) 指定する指導者のうち、希望する指導者には、中央競技団体や国立スポーツ科学センター等が実施する県外の研修会、セミナー及びトップレベルの指導現場等での研修への参加を支援する。県外研修に関しては、1人1回とする。
- (3) 指定する指導者には、県内研修及び県外研修会に参加する旅費、宿泊費の経費を予算の範囲内で支出する。

4 年間計画

5月	指定証交付
6月～12月	県内研修
随時	県外研修

特別コーチ派遣事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【2,978千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍した選手、もしくは優れた指導実績を持つ指導者を競技団体に派遣することで、三重とこわか国体に向けて、指導者の指導力向上や選手のパフォーマンスの向上を図り、国民体育大会における競技得点の獲得を目指すことを目的とする。

2 対象

国民体育大会の正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

- (1) 三重県競技力向上対策本部は、特別コーチの派遣を希望する競技団体を対象に競技力の状況及び本事業における計画等を総合的に判断したうえで、派遣する競技団体を選考する。
- (2) 実施競技団体は、8～10競技団体とし、年1～2回重点的に指導するワンポイントコーチ、または年間を通じて指導する年間コーチを派遣する。
- (3) 実施競技団体は、特別コーチによる強化練習会や合宿等の計画を立て、実施する。
- (4) 特別コーチに対しては、旅費・報償費の経費を予算の範囲内で支出する。

4 年間計画

4月	特別コーチ派遣競技団体決定
5～3月	特別コーチ派遣

競技用具等整備事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【7,000千円】

1 目的

三重とこわか国体に向けて競技力向上を図るとともに、大会終了後の全国大会等において安定した競技力を確保するため、強化活動に必要な競技用具等を整備することを目的とする。

2 整備対象競技

本事業により、競技用具等を整備する競技は、国民体育大会における正式競技とする。

3 整備対象競技用具等

- (1) 高額等の理由により、個人や競技団体に整備することが困難なもの。
- (2) 競技用具等が整備されておらず、新たに整備する必要があるもの。
- (3) 既存の競技用具等が、規格外、老朽化、性能不足等の理由により、改めて整備する必要があるもの。
- (4) 競技力向上のために数が不足しているもの。
- (5) その他、競技力向上に必要と認められるもの。

4 実施内容

- (1) 前出要件を満たす競技用具等の整備に係る要望を競技団体から募集する。
- (2) 競技団体からの要望について、競技特性、用具の特殊性、見積価格、ヒアリングの内容、現地調査を総合的に精査し、適当と認めた競技用具等を県が購入する。
- (3) 競技団体に対して県が購入した競技用具等を貸し付ける。
- (4) 貸し付けした競技用具等について、競技団体は責任を持って管理するとともに、引渡し、維持、修繕及び返納に要する費用を負担する。

5 年間計画

- | | |
|----|-----------------------|
| 4月 | 要望申請の提出 |
| 5月 | 選定委員会の設置、整備対象競技用具等の決定 |
| 6月 | 整備対象競技用具等の購入、貸付申請書の提出 |
| 随時 | 整備した競技用具等の実地調査 |

みえのアスリート応援・発信事業 実施方針（案）

平成29年度当初予算【3,521千円】

1 目的

本県代表として活躍するアスリートを幅広く情報発信することで、スポーツを「みる」「支える」人との一体感を醸成することを目的とする。

2 実施内容

(1) 広報紙の作成

県内で活躍しているアスリートを幅広く情報発信できるよう、広報紙の作成を行う。年2回程度発行を行う。

〔配布先〕

- ・県内の小・中・高等学校の児童生徒
- ・県内のスポーツ関連施設
- ・イベント等

(2) チームみえ啓発物の作成

県代表選手の活躍を啓発できるよう、チームみえのロゴ等を使用した啓発物の作成を行う。

- ・県代表選手及びスタッフポロシャツ
- ・応援用グッズ等

3 年間計画

- | | |
|------|--------------------|
| 5月 | 「輝くみえのアスリートNEWS」発行 |
| 8～9月 | チームみえ啓発グッズ等作成 |
| 10月 | 「輝くみえのアスリートNEWS」発行 |

協議事項

育成期 2 年目における競技力向上の取組について

競技力向上対策本部では、平成 28 年度からの 3 年間で「育成期」とし、目標を男女総合成績（天皇杯順位）10 位台の獲得と定め、取組を進めているところです。

そのような中、「希望郷いわて国体」では、男女総合成績は 27 位と目標を達成することはできませんでした。

この結果を受け、競技力向上の取組の成果や課題について、各種専門委員会で協議を行うとともに、競技団体ヒアリングを実施した結果、様々な課題が明らかになりました。

1 ジュニア選手及び少年選手の発掘・育成・強化について

三重とこわか国体における少年種別の主力となるターゲットエイジは、平成 29 年 3 月 23 日現在、小学校 5 年生から中学校 1 年生であることから、小学生・中学生・高校生のそれぞれの指導者の連携を図るとともに、一貫指導体制を構築する必要があります。

<専門委員会での意見>

- ・愛顔つなぐえひめ国体での天皇杯順位 10 位台の獲得に向けて、接戦を確実に勝ちきるため、選手や指導者がさらに経験を積む必要がある。
- ・ジュニア選手及び少年選手の競技力向上については、強化指定運動部等の強化拠点を再確認するとともに、強化拠点を中心とした強化活動を推進していく必要がある。

<対応する取組>

競技団体が早期に選抜チームを編成し、県外での合宿や強豪チームとの対戦機会を確保する等、国民体育大会を想定した強化活動の充実を図ることができるよう、競技団体への支援を拡充します。

また、中学校運動部及び高等学校運動部強化指定事業における強化指定運動部について、見直しも含めた検討を行いました。全国大会において活躍ができるよう、選択と集中による戦略的な取組を推進します。

2 成年選手の育成・強化について

三重とこわか国体での男女総合優勝へ向けては、成年種別において確実に競技得点を獲得することができるよう、成年選手の育成・強化をより一層進める必要があります。とりわけトップアスリートの就職支援等、成年選手獲得に向けた取組を充実させる必要があります。

<専門委員会での意見等>

- ・トップアスリートの就職支援については、「三重とこわか国体」から逆算し、トップアスリートの獲得に向けたグランドデザインを描く必要がある。また、その実現に向けては、スカウト体制の確立を行うとともに、計画的に取組を進める必要がある。
- ・県内企業や事業所でのトップアスリートの採用に加え、県や市町の職員採用について、関係団体に働きかけをおこなっていく必要がある。

<対応する取組>

トップアスリートの就職支援については、1月下旬から2月上旬にかけて競技団体ヒアリングを行い、現在、それぞれの競技において採用人数、採用年次、採用する選手についての検討を進めています。

今後は、事務局の人員体制を強化することから、三重県競技力向上対策本部と競技団体がより密接に連携を図り、成年選手の獲得に努めていく必要があります。

また、平成29年度から三重県職員採用候補者A試験にスポーツで優秀な成績を収めた競技者を県職員として採用する「行政Ⅲ」を創設しましたので、全国の強豪大学等に周知を図っていく必要があります。

加えて、県教育委員会が実施するスポーツ競技者特別選考による教員採用を継続することで、成年選手獲得に向け取組をより充実させる必要があります。

參考資料

三重県競技力向上対策委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三重県競技力向上対策本部規約第11条の規定に基づき、三重県競技力向上対策委員会（以下「委員会」という。）の組織および運営に必要な事項を定める。

(業務)

第2条 委員会は、本部会議から付託および委任された専門的な事項について、調査・審議する。

(役員)

第3条 委員会に次の役員を置く。

(1) 委員長 1名

(2) 副委員長 若干名

2 役員は、本部長が委嘱する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(委員)

第4条 委員は、次の各号に掲げる者のうちから本部長が委嘱した委員をもって構成する。

(1) 県関係者

(2) 市町関係者

(3) 産業・経済関係者

(4) 学校・スポーツ団体関係者

(5) 学識経験者

(6) その他本部長が特に必要と認める者

(委員の任期)

第5条 委員及び役員の任期は、本会の目的が達成された日までとする。ただし、委員が就任時の所属機関及び団体等の役職を離れた場合、その委員は辞任したものとみなし、その後任者が前任者の残任期間を務めるものとする。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ開会できない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員長が必要と認めるときは、委員以外に専門的知識を有する者の出席を求め、必要に応じて専門委員会を開催し、意見を聞くことができる。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が本部長の承認を得て別に定める。

附 則

この規程は、平成25年5月29日から施行する。

三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会名簿

(委員長：1名、副委員長：1名、委員：21名、計：23名)

【委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	名前
県関係	三重県地域連携部スポーツ推進局長	村木 輝行

【副委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	名前
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県体育協会理事長	東地 隆司

【委員：21名】敬称略、順不同

選出区分	所属機関・団体・役職名	名前
県関係	三重県教育委員会事務局次長	中嶋 中
市町関係	伊勢市産業観光部観光振興課副参事	松葉 清高
	東員町教育委員会事務局社会教育課長	石川 清
産業・経済関係	株式会社エクセディ執行役員管理本部副本部長	山村 佳弘
	株式会社デンソー大安製作所長	堀 誠
	本田技研工業株式会社四輪生産統括部鈴鹿製作所 総務ブロック ブロックリーダー	柳田 雅彦
	相好株式会社代表取締役	山本 将之
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県体育協会強化・普及委員会委員長	浦田 安
	三重県中学校体育連盟理事長	太田 秀樹
	三重県高等学校体育連盟理事長	藤田 隆司
	鈴鹿市立神戸中学校 剣道部顧問	北林奈津子
	県立宇治山田商業高等学校 陸上競技部顧問	小池 弘文
	県立朝明高等学校 レスリング部顧問	橋爪 幸彦
	県立四日市中央工業高等学校 サッカー一部顧問	樋口 士郎
	三重高等学校 ソフトテニス部顧問	神崎 公宏
	皇學館大学 柔道部監督	佐藤 武尊
	三重バイオレットアイリス監督	櫛田 亮介
	三重県水泳連盟強化責任者(競泳)	八田 知宏
三重県ボート協会強化責任者	丸山 亮太	
学識経験	社会医療法人峰和会鈴鹿回生病院院長	加藤 公
	三重大学教育学部教授	杉田 正明



三重ととわか国体

第76回国民体育大会 ときめいて人 かがやいて未来 2021